

白川郷荻町自然環境を守る会

荻町は 1995 年に「白川郷・五箇山の合掌造り集落」の一部としてユネスコ世界遺産に登録されました。このことは、村の伝統的な特徴を保存しようという数十年にわたる地元の努力の成果であった。第二次世界大戦後、急速に成長する日本経済に供給する電力がより多く必要となり、庄川に複数のダムが建設された。これらの工事により白川郷は経済的に豊かになったものの、それは地元の風景と伝統的な生活様式への脅威ともなった。1971 年には、荻町の合掌造り家屋が半分にまで減ってしまいました。

同年、荻町住民は、合掌造りの家と地元社会を守るために白川郷荻町自然環境を守る会を発足した。同会は、価値ある歴史的観光資源である合掌家屋を売らない、貸さない、壊さないの原則を打ち出した。これらの努力が実を結び、まず 1976 年には荻町が重要伝統的建造物群保存地区に選定され、その 20 年後には世界遺産に登録されました。荻町の全住民が同会に入っており、毎月会議に参加して、合掌造りの家屋やその周辺への変更申請を検討しています。この会の意見は、申請の承認あるいは却下を決める自治体の決定に影響を与えています。